

平成 20 年 4 月 21 日

伊勢市長 森下 隆生 様

御菌地区地域審議会
会長 中村 正

新市の一体感の醸成について（答申）

平成 18 年 10 月 12 日付け伊政第 577 号で諮問のあった新市の一体感の醸成について、地域審議会の設置に関する協議第 3 条の規定に基づき、次のとおり答申します。

記

1. 観光資源のネットワーク化
2. 伝統芸能・行事の継承
3. 協働のまちづくり
4. 参加・交流による一体感の醸成

1. 観光資源のネットワーク化

市内には、外宮・内宮をはじめ、夫婦岩、離宮院跡などの名所・旧跡があり、御菌町にも臥竜梅公園や山田奉行所記念館があります。それぞれの観光資源は独自性と魅力を兼ね備えていますが、ネットワーク化されていないのが現状です。現在運行されているおかげバス等も活用した旧 4 市町村の観光資源を結ぶ新たなルートを確立し、それぞれの観光資源が活性化されるよう取り組まれない。

市内の小学校のなかには、子どもたちが町を歩き、触れ、楽しくマップ作りをしていると聞きます。こうした手作りの良さは、何もかもが画一的になっている今だからこそ、地元の方のみならず観光客の心にもより一層の親近感・好印象を残すことができると考えます。観光資源のネットワークづくりにこのような手作りマップを活用されることを提案します。

また、効果的な情報発信も非常に重要な要素となります。臥竜梅公園には、シーズンになると県外からもたくさん見物人が訪れます。口コミをはじめ、雑誌などにより情報を効果的に市内外へ発信するとともに旅行関連会社等にも積極的に魅力ある情報を提供されるよう要望します。

2. 伝統行事・芸能の継承

市内では多くの伝統行事・芸能が行われています。しかし、実際には生活形態や価値観の変化により伝統的な行事・芸能の継承が危惧されているものもあります。現在御菌地区で行われている伝統行事についても決して例外ではありません。

小学生は、総合学習等において地元の伝統行事・芸能を学ぶ機会があると聞きます。しかし、残念なことに中学生になるとこうした機会が少なくなり、疎遠になってしまうため、興味や愛着を持続できるような方策が望まれます。例えば市内の小・中学校間でそれぞれの地区の伝統行事・芸能についての学習発表会など歴史と伝統行事のつながりを考える機会を設け、地域に密着した学習の推進を図ることが必要です。

また、市内に転入した方をはじめこうした伝統行事・芸能を知らない市民の方もたくさんいるように感じます。伝統行事・芸能を通してお互いの地域性を理解し合い、市内の特色ある伝統・文化を大切にすることを意識を育てるしくみを構築するよう提案します。

3. 協働のまちづくり

現在、世界を揺るがしているサブプライムローンの破綻は、金融商品（投資信託等）の暴落、イギリスのノーザン銀行の国有化など、新しい金融工学による世界金融経済の混乱が日本国内にも波及しています。今やグローバルゼーションは止められないと言われていています。このような世界的な金融不安の波に飲み込まれないためには、地方債は「財政の見地からでなく金融取引として」位置づけていかなければならないと考えます。

国は、地方分権・市町村合併を強力に推し進め、各地方公共団体を自立させることで小さな政府になり、地方債の政府保証を断ち切る体制の構築を進めています。少子高齢化社会に対処するためにも、地方債発行については政府保証に頼るのではなく、世界の金融経済ルールに適合したものでなければなりません。このことを念頭に置き、自主・自立した地方自治体制を構築されるよう提言します。

このことを踏まえ、合併協定において「当分の間現行どおり」とするものについては合併調整を遵守しつつ、その間にそれぞれの地域が抱える課題を整理し、多種多様な市民活動が継続的に展開できるようなシステムを構築する必要があります。

御菌町は、農業地域が多いこともあり、「出合い」により排水路の掃除などを地域住民が協力して行っています。今後はこうした地域の活力を生かした

がら、行政との協働によるまちづくりを行うことが大切であると考えます。そのためにもとりわけ職員の意識改革を進めていただくとともに、各コミュニティの交流をはかるしくみづくりや、情報のネットワーク化を進めるよう提案します。

4. 参加・交流による一体感の醸成

市内では、各種のイベント、体育大会などの行事が旧市町村単位で実施されています。御菌町のラブリバーふれあい祭りは、清流宮川の愛護啓発と地域住民のふれあいを目的に行われており、小俣町の離宮院太鼓をはじめ、御菌ソーランコンテストには市内外からもたくさん参加していただいています。

こうした「祭」や「イベント」は、参加団体の相互交流やイベントづくりなど、目的を一つにすることでより一層の一体感が生まれます。また、既存の祭りやイベントにとらわれず、全市的な祭やイベントを新たに創設をしていくことも、一体感を醸成する観点から非常に有益であると考えます。

特に体育大会などのスポーツイベントは、市民の方々が気軽に参加できるものであるため、たとえば旧市町村単位で予選、次に全市で本選という具合に新市のすべての地域の皆さんが、楽しく参加できるような仕組みをつくりあげ新市の一体感の醸成を図るよう要望します。